

平成23年度 総会開催



写真：総会会場

平成二十三年九月二十日
火曜日多久市中央公民館視聴
覚室にて、『平成二十三年
志田林三郎博士顕彰会総会』
が開催されました。

当日は理事・企画委員をかねる江口吉則教育委員長が、国立科学博物館で展示されている胸像レリーフについて取り上げ、「志田林三郎の説明文にのみ出身地が書かれている。あまりにも知られていないということとで、ますます顕彰していかなくては」と強い思いを開会の挨拶として述べられました。会の中では、平成二十二年度の事業、決算、平成二十三年度の事業や予算などが報告されました。

志田

会報

林三郎博士



会 彰 顕 士

第3号

2011年10月28日発行



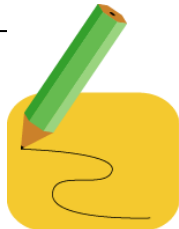
胸像レリーフの記念碑を作るため、設置実行委員の立ち上げについても取り上げられ、会長である横尾俊彦多久市長も顕彰会という形でサポートをして、「歩みはよちよちから掴まり立ちかもしれないが、偉人の歩み、そして、そこに到るまで努力された功績と多久の学問や文教の気風を大切に、私たちは子どもたちに伝えていかなければならない。誇りを持って発信していきたいと思っています。」と語られました。

また、電気学会から出版されることが決まった志田博士の伝記に関する報告も行われ、当日記念講演をされた佐賀大学・信太克規名誉教授と多久市郷土資料館・志佐喜栄さんが共同で執筆にあたり、志田博士が工部大学校へ進学するまでを志佐さんが担当、その後の半生を信太先生が担当することです。



国立科学博物館
胸像レリーフ

志田博士エッセイ募集



夏休み期間を利用して、多久市内の小学五年生、六年生、中学生を対象に『志田林三郎博士』を題材とした作文の募集が行われました。小学校部門のテーマは『ぼくの、私の郷土の偉人』八〇〇字程度の内容とし、中学校部門では『ふるさとの先人に学んだこと』をテーマに一二〇〇字程度の内容での募集でした。

小学生からの応募のみとなりましたが、中部小学校から二十二作品、東部小学校・緑が丘小学校から各三作品、南部小学校から一作品、合計二十九作品の応募がありました。小学生ならではの発想で、志田博士が同じ年頃だったときに難しい論語を読んでいたことや、さらに幼い頃から母を伝っていたことに目をつけ、自らを省みる児童が多く見られました。志田博士を誇りに思うといった内容もあり、郷土の偉人について考える機会の一端となったようです。



写真：教育者・歌人 下田歌子氏
下：詩稿（11歳）



また、顕彰会企画委員でもある今泉弘先生が校長を務める中部小学校では、今回のエッセイ募集をきっかけとして、道徳の時間を活用した志田林三郎博士に関する授業が行われました。各学校でも郷土の偉人に関する取り組みが行われていますが、今後はさらに学校との連携を強くした活動にしていきたいと思います。

今回の応募作品はすべて岐阜県恵那市で開催されている『第九回 下田歌子賞』に出展します。同賞は、恵那市出身で女性教育の先駆者である下田歌子にちなんだもので、その業績を顕彰しながらこれからの行き方・考え方を学ぶために設けられた賞です。その中の「ふるさと先人賞」受賞者は十一月月上旬に発表され、十二月十日、土曜日に同市で開催される発表、表彰式に招待されます。

『下田歌子賞』受賞者の発表に合わせて、顕彰会でも選考会を行います。

鶴田 皓

第三回 志田林三郎をめぐる人々



このコーナーでは、志田林三郎博士に大きな影響を与えた人々を紹介し、いろんな側面から志田林三郎博士の人間像を探っていきます。

鶴田皓（つるたあきら・天保六年〜明治二十一年 一八三五〜一八八八）は幼い頃から学問を好み、九歳で四書五経を暗誦し、十一歳で律詩を作るほどでした。その秀才ぶりは実弟の炭鋺王・高取伊好（たかとりこれよし）が「学問では兄にかなわなため実業家を目指す」と言ったことからもうかがえます。

東原庵舎終了後、江戸で学び、一旦帰郷して東原庵舎の教官となりますが再び遊学、熊本の木下犀潭（きのしたさいたん）のもとで唐・明・清の律（刑法）を学びます。当時、皆が右習いで洋学を学ぶのを苦々しく思っていた皓は、あえて漢学のうち実用の学問である律を学び、その後の人生を切り拓いていきます。

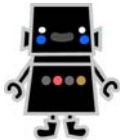
文久二年（一八六二）帰郷して再び東原庵舎の教官となり、その後、本校に進学してきた林三郎少年と出会いました。そして明治元年、戊辰戦争に出陣した皓は戦後も江戸に残り、明治政府の新律綱領編纂に携わります。明治四年に上京した林三郎は再び皓と会い、その交流は皓が亡くなるまで続いたようです。刑法の専門家として名を成した皓はボアソナードとともに刑法の草案を作成、商法や破産法の編纂にもかかわり、数々の役職をへて元老院議員となりますが、在職中の明治二十一年に五十四歳で亡くなりました。

Lives of great men

役員紹介

（敬称略・順不同）

平成23年度



- 会長：横尾俊彦
 副会長：中川正博 山本茂雄
 理事：江口吉則 古賀孝信 最所和泉 志佐喜栄
 白木直人 平間智治 西山智恵子
 企画委員：江口吉則 大谷清純 川副春海 今泉弘
 最所和泉 志佐喜栄 中村延雄 野北悟
 野田勝人
 ロボットコンテスト実行委員：大串隆祥 大谷清純
 柴田精治 藤田浩巳 平安寺優 今泉弘

皓と林三郎の交流については詳しく分っていないもの、皓は林三郎を非常に可愛がったといわれています。父を早くに亡くし、自らの才能をたよりに時代の先端を走り続けていた林三郎にとって、幼い頃の自分を知り何くれとなく力になってくれる皓は父のような存在だったのかもしれない。鶴田皓は、東京・谷中墓地に葬られています。

多久市郷土資料館内 担当 志佐喜栄
 （志田林三郎博士顕彰会 理事・企画員）

TEL 0952-75-3002
 〒 八四六・〇〇三一
 佐賀県多久市多久町一九七五

information

博士が名刺に仲間入り

多久市の名刺台紙に志田林三郎博士も加わりました。縦型と横型の2種類。表は志田博士の顔写真、裏には多久翁さんが志田博士の略歴を紹介しています。志田博士のPRに繋がるよう、多くの方に活用していただきたいと思えます。台紙は無料で印刷にかかる費用が必要です。



詳しくは多久市役所商工観光課
 0952-75-2117まで
 お問い合わせください。

会員大募集!

志田林三郎博士顕彰会の活動を応援して下さる **会員の方を募集中**です。年会費1,000円。活動内容は会報でもお知らせしていきます。詳しくは志田林三郎博士顕彰会事務局まで



発行：志田林三郎博士顕彰会
 〒 846-0002

佐賀県多久市北多久町小侍
 7-1

Tel : 0952-74-3241

Fax : 0952-74-3284

多久市中央公民館内
 担当：川内丸・福島・樋口